

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 4 月 28 日現在

機関番号：23803

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2014～2016

課題番号：26760008

研究課題名(和文) アフリカ類人猿生息地における開発・研究・保全の並立による持続的発展モデルの構築

研究課題名(英文) Establishment of Sustainable Growth Model in Protected Areas for African Great Apes through Integrating Development, Research and Conservation

研究代表者

松浦 直毅 (MATSUURA, Naoki)

静岡県立大学・国際関係学部・助教

研究者番号：60527894

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,900,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、アフリカ大型類人猿の生息地において、開発、研究、保全の並立による持続的発展モデルを構築することを目的に実施した。具体的には、ガボンのムカラバ・ドウドゥ国立公園とコンゴ民主共和国のルオー学術保護区において、(1) 地域住民の生活実態と社会関係、(2) 研究・開発・保全に関わる諸アクターの役割や関係性、(3) 研究活動が地域社会に与える影響をそれぞれ現地調査によって明らかにし、それにもとづいて、従来の「開発と保全の統合モデル」に「研究」を組み込んだモデルを考案した。

研究成果の概要(英文)：This study aimed to establish a sustainable growth model in protected areas for African great apes through the integration of "development," "scientific research," and "conservation." Field research was conducted in Moukalaba-Doudou National Park in Gabon and Luo Scientific Reserve in DRC. I revealed (1) livelihoods and social relations of local people, (2) roles and relationships of actors concerning development and conservation, and (3) impact of scientific research activities on local societies. Based on the results, I suggested a sustainable model for integrating "development" and "conservation" with implementing "scientific research."

研究分野：人類学/アフリカ地域研究

キーワード：アフリカ熱帯雨林 エコツーリズム 大型類人猿 住民参加型保全 持続的開発 ガボン コンゴ民主共和国 住民組織

1. 研究開始当初の背景

アフリカ熱帯雨林は急速に減少しており、そこにすむ野生動物の保全が喫緊の国際課題となっている。なかでも大型類人猿は、個体数減少からの回復が遅いことや、生息地破壊の影響を受けやすいことなどの理由でとりわけ脆弱性が高い (Caldecott & Miles 2005)。しかしながら、生息国がいずれも低開発国であるため、保全体制の整備は進んでいないのが現状である。頻発する武力紛争によって保護区の管理体制が崩壊し、観光を軸とする地域経済も衰退しており、貧困にあえぐ地域住民は、生活の糧をえるために伐採事業や獣肉取引への関与を強めている。大型類人猿の保全のためには、生息国の政治的安定の回復を支援するとともに、生息地において資源の持続的利用にもとづく社会経済開発を推進することが必要であるといえる。

そこで代表者は、アフリカ大型類人猿の生息地において、住民参加による持続的な開発手法を考案することを目的に、臨地調査にもとづく研究をおこなってきた。調査地は、日本人研究者が中心となって長期にわたって類人猿の野外研究が実施されてきた、ガボンのムカラバ・ドゥドゥ国立公園と、コンゴ民主共和国 (DRC) のルオー学術保護区ワンバの二ヶ所である。

これまでの研究から、類人猿の野外調査を基軸とした研究活動を継続・発展させることが、地域の持続的開発と野生動物保全に密接につながることが明らかになった。類人猿の野外調査を実施するためには、地域住民の協力が不可欠であり、研究活動が地域の政治経済や社会関係にも大きな影響をおよぼす。研究活動における雇用の創出によって狩猟活動が抑えられるだけでなく、調査への参加を通じた環境教育上の効果もあり、生態学的な基礎研究を推進することが、結果的には類人猿保全に貢献するといわれている (Caldecott & Miles 2005)。とくに日本人による類人猿研究は、地域住民とのあいだに親密な関係を築き、コミュニティ支援と一体となって進められており、持続的な開発と保全の基盤になりうる (Matsuura et al. 2013)。しかしながら、研究活動によってもたらされる経済的利益や、類人猿研究者らが蓄積してきた地域に関する情報が、開発や保全にかならずしも十分に生かされていない点が問題であることが明らかになった。

2. 研究の目的

そこで本研究では、大型類人猿の生息地であるガボンのムカラバ・ドゥドゥ国立公園とDRCのルオー学術保護区において、従来の「開発と保全の統合モデル」に新たに「研究」をくわえた持続的発展モデルを構築することを目的とした。具体的には、以下の三つの課題を設定した。

(1) 類人猿の野外調査を基軸とした調査地

の研究の歴史をまとめ、研究者が蓄積してきた地域に関する情報を整理するとともに、地域住民が類人猿調査にどのようにかかわってきたかを聞きとりによって明らかにする。さらに、生計と動物資源利用に関する調査をおこなうことで、研究活動が地域経済や野生動物保全にどのような影響を与えているかを明らかにする。研究活動が地域社会にもたらすネガティブな影響についても分析し、その軽減策をあわせて検討する。以上から、研究活動が地域の経済開発と野生動物保全にどのような影響を与えているかを解明する。

(2) 調査地でおこなわれている研究およびコミュニティ支援活動が、どのような方法と体制で実施され、地域住民の社会関係にどのような変化をもたらしているかを、みずからも主体的に関与する参加型アクションリサーチの手法を用いて調査する。また、類人猿の研究と保全にかかわっている政府機関、国際NGO、住民組織、私企業、研究機関などの諸アクターの役割と活動内容について、聞きとり調査と資料分析によって明らかにする。以上を通じて、類人猿の研究と保全にかかわる諸アクターの役割と関係性を解明する。

(3) (1)、(2)の結果を二地域で比較し、研究者、実務家、政府関係者、地域住民らに提示して議論を深めることで、従来の「開発と保全の統合モデル」に新たに「研究」をくわえて、開発、研究、保全の並立による持続的発展モデルを考案する。

3. 研究の方法

ガボンのムカラバ・ドゥドゥ国立公園とDRCのルオー学術保護区のふたつの調査地において、上記(1)~(3)の課題に関する調査を実施した。調査期間は、2014年4~5月(ガボン)、2014年8~9月(DRC)、2014年12月~1月(ガボン)、2015年3月(ガボン)、2016年7~8月(コンゴ)である。

4. 研究成果

調査の結果、それぞれの調査地において、地域の歴史背景と住民生活の特徴を見出すとともに、NGO、政府関係者、研究者、民間業者などの保全と開発に関わる諸アクターの活動およびアクター間の関係を解明した。また、調査地間の比較から、(1)ふたつの保護区は、生態環境や保全上の位置づけが類似している一方で、文化的特徴は大きく異なっており、そうした文化多様性を考慮した保護区運営が求められる、(2)どちらの保護区も外部者をふくめた多様なアクターが複雑に関わっていることから、住民参加を推進するだけでなく、アクター同士が関係を結び、それぞれに役割を果たすことができるような仕組みが必要であることが明らかになった。

一方、類人猿の長期野外研究と地域社会の関係に着目して、研究活動が地域の社会経済

や野生動物保全の意識に与える影響について検討した。その結果、地域住民と友好的な関係を築き、コミュニティ支援と一体となって進められてきた長期野外研究で構築される社会関係が、保全と開発を推進するうえでも重要な基盤になることが明らかになった。

<引用文献>

Caldecott J. and L. Miles 2005. *World Atlas of Great Apes and their Conservation*. University of California Press, Berkeley.

Matsuura, N., Y. Takenoshita and J. Yamagiwa. 2013. Eco-anthropologie et primatologie pour la conservation de la biodiversité : un projet collaboratif dans le Parc National de Moukalaba-Doudou, Gabon. *Revue de Primatologie* 5|2013, document 65.

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 6 件)

松浦直毅「<住民参加>によるアフリカ熱帯雨林の保全と開発に向けて ガボン南西部ムカラバ・ドゥドゥ国立公園の事例から」『アフリカレポート』52: 88-97. 2014. 査読有

Matsuura, N. and Moussavou, G.M. Analysis of Local Livelihoods around Moukalaba-Doudou National Park in Gabon. *Tropics* 23(4): 195-204. 2015. 査読有

松浦直毅 (書評)『誰のための海洋保護区か 西アフリカの水産資源保護の現場から』(關野伸之著)『アフリカ研究』87: 97-98. 2015.

Matsuura, N. The roles of local associations in rainforest conservation and local development in the Democratic Republic of the Congo. *African Study Monographs* Supplementary Issue 51: 57-73. 2015. 査読有

Matsuura, N. Dynamics of social changes and relationships with neighbors among African hunter-gatherers: A case of the Babongo in southern Gabon from 2003 to 2012. *Senri Ethnological Studies* 94: 203-226. 2016. 査読有

Matsuura, N. Humanitarian assistance from the viewpoint of hunter-gatherer studies: Cases of central African forest

foragers. *African Study Monographs* Supplementary Issue 53: 117-129. 2017. 査読有

[学会発表](計 7 件)

松浦直毅「アフリカ熱帯林の保全と地域開発は両立可能か? ガボン、ムカラバ・ドゥドゥ国立公園における住民参加型事業の取り組み」(口頭)日本アフリカ学会第51回学術大会・フォーラム「野生動物と人間の共生を通じたアフリカ熱帯林の生物多様性保全」(京都大学、京都)2014年5月26日.

松浦直毅「コンゴ民主共和国の熱帯雨林保全と持続的開発における住民組織の役割」(口頭)日本アフリカ学会第52回学術大会(犬山観光センター・フロイデ、愛知)2015年5月24日.

松浦直毅「住民参加によるエコツーリズム開発を目指して - ガボン、ムカラバ・ドゥドゥ国立公園の事例」(口頭)日本アフリカ学会第53回学術大会・フォーラム「アフリカの少数民族による文化/自然の観光資源化と住民参加の新展開」(日本大学生物資源科学部、神奈川)2016年6月4日.

Matsuura, N. Les moyens de subsistance et relations hommes-nature. (oral) Symposium Internationale sur la Conservation de la Biodiversité en forêt tropicale à travers la coexistence durable entre l'Homme et l'Animal. Institut Français, Libreville, Gabon. 2014年4月30日.

Matsuura, N. Bridging ecological anthropology and primatology for biodiversity conservation of African rainforests. (oral) IUAES (International Union of Anthropological and Ethnological Science) Inter-congress. Makuhari Messe, Chiba, Japan. 2014年5月17日.

Matsuura, N. Humanitarian assistance from the viewpoint of hunter-gatherer studies. (oral) The International Workshop: Reconsidering the Basic Human Needs for the East African Pastoralists - Towards the Localization of Humanitarian Assistance. Granship, Shizuoka. 2015年12月11日.

Matsuura, N. Ecotourism development in Gabon. (oral) Workshop on Participatory Tourism in Africa, !Kha tuu, Western Cape, South Africa. 2017年3月7日.

[図書](計 4 件)

Matsuura, N. Human female dispersal and social organization: A case of central African hunter-gatherers. (In: Furuichi, T., J. Yamagiwa, and F. Aureli eds.) *Dispersing Primate Females Life History and Social Strategies in Male-Philopatric Species* pp. 165-183. Springer. 2015.

松浦直毅 「アフリカ熱帯雨林における文化多様性と参加型保全 ふたつの自然保護区における地域社会の比較から」『アフリカ潜在力 5 自然は誰のものか 住民参加型保全の逆説を乗り越える』(山越言、目黒紀夫、佐藤哲編) pp.145-166. 京都大学学術出版会. 2016.

松浦直毅 「保全と開発の両立に向けた地域住民との協働 ガボン南西部ムカラバ・ドゥドゥ国立公園における実践から」『森をめぐるコンソナンスとディソナンス - 熱帯森林帯地域社会の比較研究』(CIAS Discussion Paper Series) (竹内潔、柳澤雅之、阿部健一編) pp.53-57. 京都大学地域研究統合情報センター. 2016.

松浦直毅 「植民地時代のピグミー」『狩猟採集民からみた地球環境史 自然・隣人・文明との共生』(池谷和信編) pp.217-222. 東京大学出版会. 2017.

〔産業財産権〕

出願状況 (計 0 件)

取得状況 (計 0 件)

〔その他〕

ホームページ等

<http://babongo.o.oo7.jp/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

松浦 直毅 (MATSUURA, Naoki)

静岡県立大学・国際関係学部・助教

研究者番号：60527894